

# 池上義信先生とのお別れ

石 沢 進

2002年7月31日に先生との最後のお別れにあたりお話しをいたしました。その時のメモを掲載します。

私は先生との出会いにより、一生の間に方向転換し、仕事も農学部から理学部への配置替えをいたしました。それも先生の指導の賜物であり、深く感謝しています。先生とのかかわりについて年代ごとに大まかに整理すると次のようになります。

1960年以前 ユキツバキの標本各地で採集に没頭  
池上先生の標本作製をみて開始

1959 8 18 No.1 私の最初の採集日と標本番号  
1960 6 11 池上先生からの五頭連峰の魚止滝採集  
時から樹木を多数収集  
始めはユキツバキだけ、その後樹木・草本・シダ  
と次第に採集植物の範囲を拡大

1960～1980年

植物の分布資料の採集	池上先生との山歩きの時期 現地での直接指導
植物同好じねんじょ会	活動最盛期 強化合宿の強 行（定例8月上旬）
携帯必需品の電灯	たとえ道程 4km でも朝か ら日暮れまで歩き、最後は 電灯
昼食抜き	午後4時過ぎの昼食もしば しば
怪我	夜道での転倒、メガネ紛 失、でも痛くないとのこと など

数え切れない山行きの連続、池上先生と同行の思  
い出多数

1980～2000年

池上先生監修の「新潟県植物分布図集」の刊行  
国内でも例を見ない分布図 池上先生採集の植物  
標本の記録を残す目的で開始  
植物分布図集は完成でなく、研究のスタート作  
り 初期の分布図は改定も必要  
会員による独自の研究方向の礎石になるよう先  
生からの期待 20集まで刊行

2000年以降

池上資料館構想の停滞  
未整理標本の扱い 1971年の一部まで整理、それ以  
後 2000年、約30年間の標本は束ねたまま 年間  
5000点として15万点以上（推定）  
各種資料や文献の一括保管の必要性  
新潟県の植物に関する貴重な資料の蓄積  
後進の県内の研究者に欠かせない財産のはず  
図り知れない遺産を残された先生の恩返しが出来  
ればと思いながらも最近の体力の衰えての頃で混  
迷の状況（私こと 当時脊髄狭窄症で病院通い）

お別れに当たり、以上のような勝手なお話を申し上げ  
ましたが、長い間のご指導に改めてお礼申し上げます。先  
生のご冥福をお祈りすると共に、残されたご家族のご多  
幸を祈念いたします。以上でお別れの言葉に代えさせて頂  
きます。



植物採集を始めた初期のころ訪れたブナ・ユキツバキの自然林

この自然林の出合と感激とともにユキツバキ  
の魅力にひかれた奥胎内のブナ林（1961 11  
19）：池上先生と坪谷富男氏〔池上先生 ユキ  
ツバキに着生する葉上苔の発見地〕